

BCP策定で働きやすい会社へ ～顧客と社員の安全・安心を確保～ —株式会社 国宝社—

企業概要・沿革

当社は、東京で大正8年の創業以来、「製本」の分野で出版事業の一翼を担ってまいりました。本屋さんに並ぶ本を毎日10万冊作り続けています。日々、さまざまな人の想いが、紙の上に印刷されて工場にやってきます。私たちの仕事は、それを綴じ、想いが届きやすい形にすることです。

印刷物の大きさはコピー用紙の約8倍、それが1万枚以上入荷されます。そのため、工場内ではフォークリフトを利用します。これらを大型の機械を用いて日々製本します。

本は1点ずつ仕様が異なるため毎回油断せずに製本してます。油断すると7巻と8巻のカバーをかけ間違える、ページ順を間違えるなどの「まさか」が起きてしまいます。その対策として、作業前に確認、作業中に確認、作業後にも確認。当たり前の徹底を心掛けてます。

特許技術 3方色付け

自社開発した色付けラインによって、3つの断裁面に色付けすることが出来ます。高い作業効率と色ムラのない安定した品質を実現し、特許を取得しました。

本の印象をがらりと変えるこの技術では、本の付加価値を高める事ができます。

たとえば、装丁の色に合わせた色付けで、本全体に統一感を生み、美しいプロダクトのような存在感をもたらします。

5Sの徹底

当社は1つの製本物が入荷されてから出荷されるまで約1週間です。そのため、整理整頓が進まないとなつという間にモノが積み上がります。結果、本来必要なものがすぐに見つけられなかったり、通りたい道が通れず遠回りしたりという事が多々あります。

そこで、5Sを徹底しムリ・ムダ・ムラを省くようにしています。



トラック2台が入る工場入口



大型の製本設備



本の側面に色をつけます



通り道へテープを貼ってます

BCP策定への取り組んだ理由

当社は出版業界の一翼を担う存在として、多数のお客様に支えられています。当社の災害復旧時の対応はお客様にとっても重要な要素であると考えてます。また、日頃製本での「まさか対策」は徹底しておきながら日常での「まさか対策」については必要性を認識していたが、膨大な作業が必要で社内の体制を組む余裕がなく、実施できない状態がありました。

板橋区がBCP簡易モデルを企業へ勧めていることを知り、しかも訪問支援を実施することによって、この機会を利用してBCP策定を決めました。

策定にあたり特に注を力した点

①どんな目的のために何を優先すべきかを重点におきました。当社の場合は「人命優先」「安否確認」「早期復旧」となります。

②①の目的を達成するため自社に足りないものは「情報（特に連絡先）」という事を実感しました。例えば機械が故障した場合の連絡先を役員の一部しか知らない事が判明しました。

③BCPが形骸化しないよう年に1度決まった時期に見直すことを社内ルールとして決めました。また、机上の空論とならないよう実際に訓練する事が重要だと肌で感じました。

今年から防災訓練などにあわせBCP対策を行っていく事決めました。



株式会社 国宝社
取締役 木村秀継

BCP策定の感想・効果

「まさか」をどれだけ予想しておくかの重要性を改めて感じた。

今回、BCPを策定し、たくさんの予想外と触れる事が出来ました。そして、実際の行動に移せるよう年一回は社員全員への理解・訓練を進めなければならないと感じました。それを毎年継続する事で社員が安心してその安心感が社員のご家庭や顧客へも伝わると考えてます。

結果、この取組がお互いの信頼を深めていく一助になると確信しています。

とはいえ、まだスタートラインにたったばかりです。作って終わりではなく実行し続け自社のモノにしていきます。

事業者情報

事業者名	株式会社 国宝社
本社所在地	板橋区向原2-2-1
設立	大正8（1919）年4月
資本金	1,500万円
従業員数	60名
代表者	林 雄一郎
Tel	03-3958-2281
E-mail	k-kokuhosya@nth.biglobe.ne.jp